

令和3年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書(概要版)

令和3年8月
教育部教育総務課

1 取組の概要

【報告書】参照
P4~10

(1) 実施日 平成3年4月24日(土) 午前8時30分から午後1時30分頃まで

(2) 実施場所 公立全小・中学校(28校), 大町スポーツ施設

(3) 当日のタイムスケジュール(※詳細は各学校で異なる。)

時間	学校教育活動(例)	市統一テーマ訓練 (感染症対策を踏まえた避難所開設訓練)
8:45		
9:15	1校時 防災啓発講話	市職員集合 ・一日の流れの確認 ・防災備蓄倉庫の確認 ・図上訓練 等
9:30		
9:45	2校時 「命」の授業	
10:15		避難所開設訓練 ・受付設置 ・避難スペース設置 ・簡易ベッド・テント設置 ・受付訓練 ・特設公衆電話設置、通信訓練 等
10:45	3校時 安全指導	
11:00	発災想定・避難訓練 講評(校長・消防署員) 発災時のワンポイントアドバイス	
11:20	下校	
12:20		片付け、意見交換
13:15		避難所運営本部(教育会館)への終了連絡 解散
13:30		

(5) 参加者数(人)※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業に伴い中止

参加者区分	令和3年度	令和元年度	令和元年度比
学校(教職員・児童・生徒)	16,685	15,947	738
保護者	0	13,836	▲13,836
地域	0	660	▲660
市職員(避難所担当職員・初動要員等)	490	313	177
消防・警察職員(消防団員を含む。)	43	114	▲71
合計	17,218	30,870	▲13,652

(4) 感染症対策について

・学校教育活動(「命」の授業・防災啓発講話)は、保護者・地域の方への公開を中止、避難訓練後の保護者への引取訓練についても中止
・市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」は、市職員のみで実施し、地域・関係機関と連携した訓練は中止
また、訓練の場所は、体育館・校舎外回りに限定したうえで、児童・生徒との動線を分離して実施

実施校	令和3年度	令和元年度	令和元年度比
東京都立調布北高等学校	241	715	▲474
東京都立調布南高等学校	707	736	▲29
東京都立神代高等学校	※	56	▲56
明治大学付属明治高等学校・中学校	1,390	1,363	27
晃華学園中学校高等学校	310	932	▲622
桐朋女子中学校・高等学校	※	1,043	▲1,043
ドルトン東京学園中等部	397	0	397
計	3,045	4,845	▲1,800

◎上記の都立高校・私立学校の参加者数は、左表に含まれていない。
※印の2校は、新型コロナウイルス感染症の影響により避難訓練等を延期(令和3年度内に実施予定)

2 学校教育活動の取組

【報告書】参照
P42~80

(1) 「命」の授業・防災啓発講話

- ・児童・生徒に命の尊さや「自らの命は自らが守る」意識を高める「命」の授業を実施
- ・消防署員、東日本大震災の被災地等の講師による、実体験に基づく防災啓発講話を実施

(2) 避難訓練

- ・全学年が校庭へ避難する訓練を実施した。また、校庭への整列後、学校長及び調布消防署員(市立小・中学校全校に派遣)から避難訓練についての講評を実施

▼三角巾を用いた応急手当等の習得(国領小)



▼オンラインを活用した東日本大震災被災地の方による講話(調布中)



▼校庭への避難訓練(第七中)



3 市統一テーマ訓練の実施(感染症対策を踏まえた避難所開設訓練)

【報告書】参照
P12~15

(1) 訓練内容

- ・避難所開設時に各学校避難所に参集する市職員により、令和元年台風19号における避難所開設時の課題や感染症対策を踏まえた訓練を実施

(2) 訓練内容

- ・校門・体育館の開錠方法の確認、ペット避難場所の確認、校舎利用図の確認による図上訓練、体育館における感染症対策を踏まえた避難所の受付(手指消毒、検温等)、避難スペース(1区画:2×2m)、簡易テント・ベッドの設置、避難所運営本部(教育会館)との通信訓練等

(3) 訓練参加者数 588人(市職員490人・教員98人)

▼感染症対策を踏まえた受付設置・受付訓練



▼感染症対策を踏まえた避難スペース設置訓練



▼簡易テント・ベッドの設置訓練



4 連携・協働の取組

【報告書】参照
P7~8

(1) 調布消防署との連携

- ・市立全小・中学校での避難訓練の視察・講評や、各校における「命」の授業、防災啓発講話を実施
- ・避難訓練時における講評等のため、市立全小・中学校に消防署員を派遣
- ・「命」の授業、防災啓発講話の講師として、毎年の輪番校として5校に署員を派遣(八雲台小、石原小、若葉小、第四中、第五中)

(3) 市内部立・私立学校との連携

- ・調布南高等学校において避難訓練を実施
- ・調布北高等学校において避難経路の確認、総合防災安全課職員・自治会の方からの講話を実施
- ・晃華学園中学校高等学校、明治大学付属明治高等学校・中学校において、避難訓練等を実施

- ・【新規】ドルトン東京学園中等部において避難訓練を実施
- ※神代高等学校及び桐朋女子中学校・高等学校は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期(年度内実施予定)

(5) 市長部局各部との連携

- ・初動要員、避難所担当職員、管理職職員が各小・中学校等において市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」を実施

(2) 地域・NPO法人調布心身障害児・者親の会との協働

- ・職員対象の市統一テーマ訓練事前説明会に、地区協議会、自治会、NPO法人調布心身障害児・者親の会の方に参加いただき、訓練参加職員(避難所に従事する職員)との顔合わせ、訓練内容の共有を図った。
- ※新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、説明会実施後に、地域・NPO法人調布心身障害児・者親の会の方の訓練参加は中止

(4) 市内企業との連携

- ・スターツCAM株式会社の協力により、起震車及びスタッフを派遣(第一小)

▼避難訓練

(明治大学付属明治高等学校・明治中学校) (晃華学園中学校高等学校)



▼防災ビデオの鑑賞



5 出された意見の概要(課題)

訓練参加職員から多く出された意見を抜粋

【報告書】参照
P16~39

- ・訓練無しに発災時の対応は難しい。定期的に訓練する必要性を感じた。
- ・訓練により、避難所開設に対する不安が軽減された。
- ・避難所開設・運営は地域の方の協力が不可欠であることが再認識できた。協働による訓練実施が重要。
- ・学校職員が参加したことで、施設の状況等を迅速かつ丁寧に確認することができた。
- ・出された課題、意見を次の訓練の改善に繋げるが重要

- ・避難スペース(2×2m)設置時のガイド紐が使いづらい時間がかかる。同様のサイズのブルーシートを敷くことにすると、迅速かつ避難スペースが判別しやすくなる。
- ・教室を避難スペースとする際、机・イスの保管場所を明確にする必要がある。
- ・簡易テント・ベッドの個数が少ないため、用途を明確にする
- ・その他、感染症対策、要配慮者への対応、ペット同行避難、避難者名簿、様々な状況を想定したマニュアルの整備等

課題等の改善に向け、地域、関係機関、庁内関係部署と協働・連携を図り、検討を進めます。